



令和2年1月22日

特別展「京の国宝—<sup>みやこ</sup>守り伝える日本のたから—」の開催  
～京都ゆかりの珠玉の名宝が一堂に！～

文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、京都市及び読売新聞社は、京都市京セラ美術館において、「日本博」の主要事業の一つとして、京都ゆかりの国宝と京都に関係の深い皇室の名宝等を一堂に展示する特別展を開催しますので、お知らせいたします。

本展は、古代より育まれてきた日本人の自然への畏敬の念や美意識等を、絵画、彫刻、工芸、書跡、考古資料、歴史資料等、幅広い分野の京都ゆかりの国宝と、千年の都であった京都に関係の深い皇室の名宝等約40件により通覧するものです。

また、文化財の保存活用に不可欠な修理材料の確保や技術の継承と、模写・模造製作を通じた技術の復元といった文化庁の取組についても御紹介いたします。

本展は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として展開する「日本博」、また「紡ぐプロジェクト」の一環として、本年3月の京都市京セラ美術館のリニューアルオープンを記念する展覧会「京都の美術250年の夢」に合わせて開催するものです。

## 【展覧会概要（予定）】

1. 会 場：京都市京セラ美術館 本館北回廊2階（京都市左京区岡崎円勝寺町124）
2. 会 期：令和2年4月28日（火）～6月21日（日）
3. 主 催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、京都市、読売新聞社
4. 特別協力：宮内庁（宮内庁三の丸尚蔵館）
5. 出品文化財：国宝37件、重要文化財1件、宮内庁所蔵文化財5件、ほか模写模造2件、文化財修復用具・関連映像等
6. お問合せ：特別展「京の国宝—守り伝える日本のたから—」広報事務局（ユース・プランニングセンター内） 電話：03-3409-4266 FAX：03-3499-0958 E-mail：[miyako2020@ypcpr.com](mailto:miyako2020@ypcpr.com)
7. 公式ホームページ：<https://tsumugu.yomiuri.co.jp/miyako2020>

### <担当>文化庁文化財第一課

課 長 田村 真一（内線 2884）

主任文化財調査官 藤田 励夫（内線 2888）

総 括 係 長 是永 寛志（内線 2886）

電話：03-5253-4111（代表）

03-6734-2886（直通）

独立行政法人日本芸術文化振興会

日本博事務局文化事業第1チーム 長澤 由美子

電話：03-3265-6075（直通）



日本の宝、世界へ、未来へ。

守り伝える日本のたから

# 京の国宝

PRESS  
RELEASE

Special exhibition:

# Kyoto National Treasure

To Protect and Convey Japanese Treasure

特別展

日本博／紡ぐプロジェクト



「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』―皇室の至宝・国宝プロジェクト―」は、皇室ゆかりの美術工芸品や国宝・重要文化財など、日本の美を未来へ伝え、世界へ発信していくために、文化庁、宮内庁、読売新聞社が官民連携で取り組む事業で、2018年11月に発表しました。特別展覧会の開催、日本美術・文化の魅力を外内に発信するポータルサイトの運営、文化財修理といった事業に特別協賛・協賛企業の協力を得ながら取り組みます。展覧会などの収益の一部は、貴重な文化財の修理に充て、文化財の「保存・修理・公開」のサイクルを永続させる仕組みを作っていきます。

紡ぐプロジェクトHP



日本の美は、縄文時代から現代まで1万年以上もの間、大自然の多様性を尊重し、生きとし生けるもの全てに命が宿ると考え、それらを畏敬する心を表現してきました。

日本では、景観や風土を大切にし、縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、現代の漫画・アニメなど様々な分野、衣食住をはじめとする暮らし、生活様式等において、人間が自然に対して共鳴、共感する心を具現化し、その美意識を大切にしています。

日本博は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、総合テーマ「日本人と自然」というコンセプトの下、

縄文時代から現代まで続く日本の美を国内外へ発信し、次世代に伝えることで、更なる未来の創生を目指し、2019年からスタートしました。

文化庁、日本芸術文化振興会、関係府省庁や文化施設、地方自治体、民間企業・団体等の総力を結集し、日本の美を体現する美術展・舞台芸術公演、文化芸術祭等のプロジェクトを四季折々、年間を通じ、日本全国で展開していきます。

日本博HP



## 開催要項

日本博／紡ぐプロジェクト

特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」

令和2年(2020年)4月28日(火)～6月21日(日)

京都市京セラ美術館 本館北回廊2階(京都府京都市左区岡崎門勝寺町124)

休館日:月曜日(ただし5月4日は開館)

開館時間:午前10時～午後6時(入館は閉館の30分前まで)

主催:文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、京都市、読売新聞社

特別協力:宮内庁(宮内庁三の丸尚蔵館)

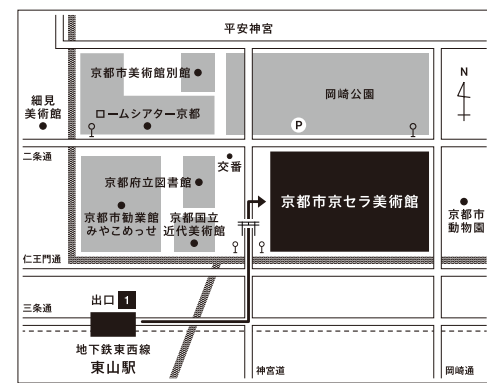
観覧料:一般1500円ほか

プレス問い合わせ先

特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」広報事務局(ユース・プランニング センター内)

〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 ヒューリック渋谷一丁目ビル3F

TEL:03-3409-4266 FAX:03-3499-0958 E-mail:miyako2020@ypecpr.com 担当:鈴木・和泉・池袋





## 歴史資料、考古資料、古文書

京都を知るためのアプローチとして資料的な文化財から踏み入っていきます。京都を中心とした伊能図の世界から始まり、黎明期の京都に関わる考古資料をご覧ください。文字資料としての古文書では、公家文化を代表する藤原定家の『明月記』など文字から見る京都を堪能できます。



国宝 明月記  
自筆本のうち  
正治二年正月二日記  
鎌倉時代 冷泉家時雨亭文庫蔵

国宝 鞍馬寺経塚遺物  
平安時代  
鞍馬寺蔵



平安京を舞台に、500年以上にわたって絢爛たる仏教文化が開花したことはよく知られています。空海がもたらした鎮護国家の役割を担った真言密教や、平安後期以降に幅広い階層に信仰された浄土教の隆盛に伴いおびただしい仏像が造られ、今日まで伝えられました。重厚な迫力に富む平安前期、王朝貴族の美意識を反映した平安後期、高度な写実表現を達成した鎌倉時代の作例を紹介します。

## 彫刻

## 京の国宝

守り伝える日本のたから

本展は、古代より育まれてきた日本人の自然への畏敬の念や美意識等を、絵画、彫刻、工芸、書跡、考古、歴史資料等、幅広い分野の京都ゆかりの国宝と、千年の都であった京都に関係の深い皇室の名宝等約40件により通覧するものです。また、文化財の保存活用には不可欠な修理材料の確保や技術の継承と、模写・模造製作を通じて技術の復元といった文化庁の取組についても御紹介いたします。本展は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として展開する「日本博」、また「紡ぐプロジェクト」の一環として、本年3月の京都市京セラ美術館のリニューアルオープンを記念する展覧会「京都の美術250年の夢」に合わせて開催するものです。



春日権現験記絵のうち 巻第十  
鎌倉時代 宮内庁三の丸尚蔵館蔵

## 書跡・典籍

文字で表された文化財は、京都の多様性を分かりやすく伝えてくれます。京都を彩った公家文化は、公家の日記に詳細に記録されています。また、京都で花開いた仏教文化は、平安遷都と共に創建された官寺・東寺の歴史を綴った『東宝記』などに代表されます。空海が中国から持ち帰った『三十帖冊子』など、世界に開かれた文化も京都の顔の一つです。



国宝 木造二十八部衆立像のうち 婆藪仙人  
鎌倉時代 妙法院蔵

国宝 木造梵天坐像  
平安時代 教王護国寺蔵



国宝 三十帖冊子のうち 第十五帖  
平安時代 仁和寺蔵

古文書  
国宝 御堂関白記  
自筆本のうち 寛弘元年上  
平安時代 陽明文庫蔵

## 四

## 工芸品

工芸品は、漆や金属、陶磁、染織など多種の材質を、単独で、あるいは組み合わせで製作されたものです。その製品は、人々の生活や信仰の中で用いられ、引き継がれてきました。本章で御紹介する京都における当代理最高峰の技術や表現を用いた特色ある工芸品、そして多種多様な工芸技術が集結した古神宝類から、今に伝える公家文化ならびに武家文化の精華をご覧ください。

国宝 玳瑁天目茶碗  
南宋時代 相国寺蔵



国宝 太刀 銘久国  
鎌倉時代 文化庁蔵



## 五

## 絵画

国宝指定を受けている京都ゆかりの絵画は少なくありません。なかでも平安時代の京都で育まれた穏やかで繊細優美な絵画様式が、その後の日本絵画の歴史の上で、まさに背骨の役割を果たしている点は見逃せません。本室では、平安時代にひとつの頂点に到達した仏教絵画と、平安時代に飛躍的に発達し、鎌倉時代を通じて熟成を深めていった「やまと絵」の優品を紹介します。



国宝 紙本著色法然上人絵伝のうち 巻第九  
鎌倉時代 知恩院蔵



重要文化財  
絹本著色五百羅漢図  
南北朝時代 東福寺蔵  
修理作業風景

## 六

## 模写・模造と修理

文化財を護ることは、それぞれの文化財をよく知ることです。それはまた、文化財を多くの人に親しんでもらう基本でもあります。模写・模造からは、文化財が作られた技法、材料をよく知ることが出来ます。また、文化財を後世へ伝える修理の技術と材料を知ることが、護ることだけでなく、文化財に親しんでもらう興味深い糸口でもあります。